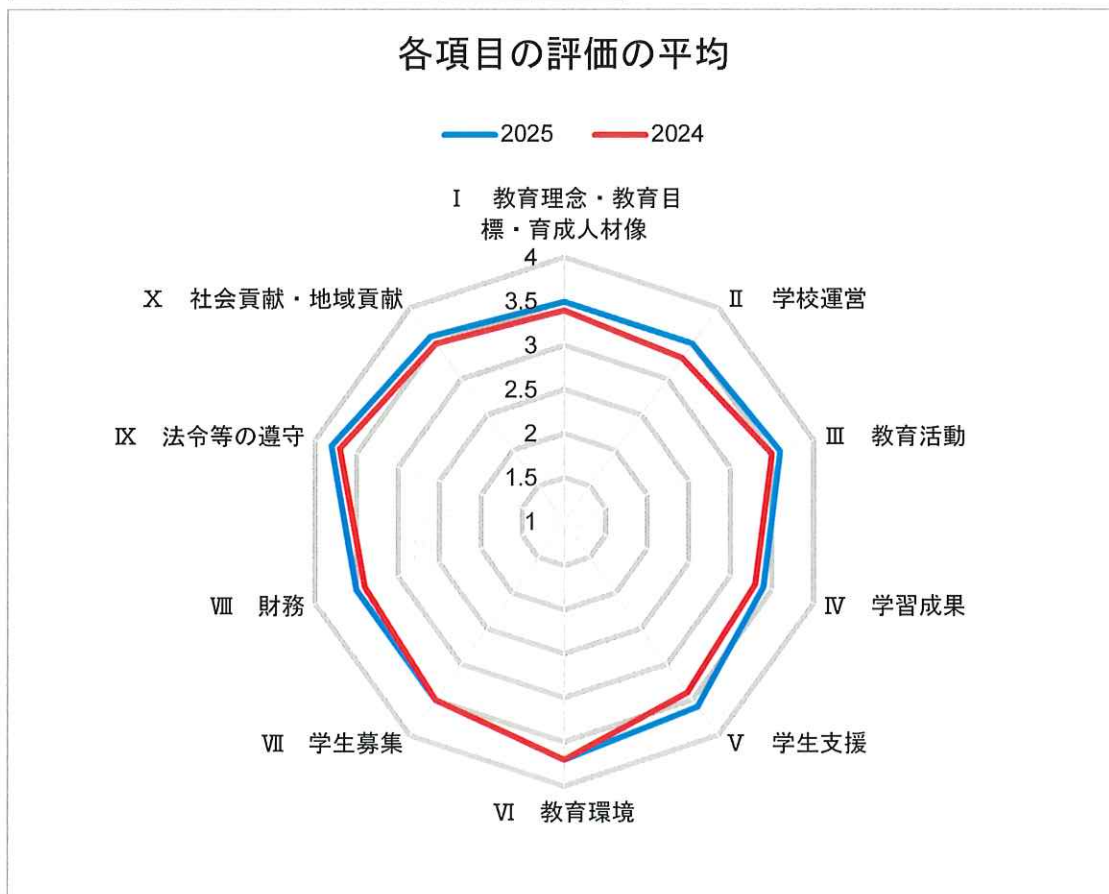


1. 自己点検・自己評価の項目ごとの得点

2026年2月4日～10日にかけて教職員13名にアンケート調査を実施した。回収率は100%であった。評価基準は、「4：適切」「3：ほぼ適切」「2：やや不適切」「1：不適切」とした。

評価項目	平均点	
	2025	2024
I 教育理念・教育目標・育成人材像	3.5	3.4
II 学校運営	3.5	3.3
III 教育活動	3.6	3.5
IV 学習成果	3.4	3.3
V 学生支援	3.6	3.4
VI 教育環境	3.7	3.7
VII 学生募集	3.5	3.5
VIII 財務	3.5	3.4
IX 法令等の遵守	3.8	3.7
X 社会貢献・地域貢献	3.6	3.5



評価項目	平均点	
	2025	2024
I 教育理念・教育目標・育成人材像	3.5	3.4
1) 教育理念・教育目的・期待される卒業生像は定められているか	3.9	3.8
2) 学校における看護教育の特色は明確か	3.5	3.6
3) 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.4	3.1
4) 教育目標・期待される卒業生像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	3.3	2.9
5) 教育理念、教育目的、教育目標は定期的に見直されているか	3.5	3.5
II 学校運営	3.5	3.3
1) 教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5	3.4
2) 学校運営会議、職員会議、教員会議は定期的開催している	3.5	3.8
3) 教務および事務の組織を整備し、業務分掌は明確になっているか	3.9	3.4
4) 就業規則等は整備されているか	3.5	3.2
5) 法令等を遵守し適切に運営しているか	3.3	3.5
6) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.7	2.9
III 教育活動	3.6	3.5
1) 教育理念等が反映された教育課程の編成がされているか	3.6	3.4
2) 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.6	3.8
3) カリキュラムは体系的に編成されているか	3.7	3.8
4) 実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	3.6	3.7
5) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.7	3.7
6) 学校関係者からの評価を取り入れているか	3.7	3.8
7) 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.5	3.7
8) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.5	3.5
9) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.3	3.0
10) 関連分野の新たな知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための体制はあるか	3.4	3.3
11) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.5	3.4
IV 学習成果	3.4	3.3
1) 卒業時の到達状況を分析しているか	3.7	3.8
2) 資格取得率(国家試験)の向上に向けた取り組みが図られているか	3.8	3.7
3) 退学率の低減に向けた取り組みが図られているか	3.4	3.2
4) 卒業生の活躍や評価を把握しているか	2.9	2.8
5) 卒業後のキャリア形成を把握し学校の教育活動に活用されているか	3.2	3.1
V 学生支援	3.6	3.4
1) 就職・進学に関する支援体制は整備されているか	3.8	3.4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	3.6	3.5

3) 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.6	3.3
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7	3.5
5) 自治会活動に対する支援体制は整備されているか	3.6	3.8
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	3.5	3.2
7) 保護者と適切に連携しているか	3.5	3.2
8) 卒業生への支援体制はあるか	3.7	3.3
VI 教育環境	3.7	3.7
1) 施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか	3.5	3.7
2) 防災に対する体制は整備されているか	3.8	3.7
VII 学生募集	3.5	3.5
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	3.5	3.5
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5	3.5
3) 学納金は妥当なものとなっているか	3.6	3.5
VIII 財務	3.5	3.4
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.0	2.9
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.5	3.4
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	3.7	3.7
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	3.6	3.5
IX 法令等の遵守	3.8	3.7
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9	3.9
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7	3.6
3) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.8	3.6
4) 自己評価結果を公開しているか	3.8	3.7
X 社会貢献・地域貢献	3.6	3.5
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.8	3.8
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.8	3.8
3) 地域に対する公開講座等の受託を実施しているか	3.3	3.0

2. 自己点検・自己評価の結果の考察

I 教育理念・教育目標・育成人材像

総合評価：3.5（前年 3.4）

教育理念や教育目標・期待される卒業生像や当校の特色は今年度もおおむね「適切」であると評価されており、前年度よりわずかに向上した。特に、1) 教育理念・教育目標・期待される卒業生像は定められているか (3.8→3.9) の項目は引き続き高い評価を得ている。また、4) 学生や保護者への周知に関する評価は前年度より改善がみられ (2.9→3.3)、理解促進の取り組みが一定の成果をあげていると考えられる。しかし、一方で「入学時の説明のみでは記憶に残らないのではないか」という意見があり、継続的な情報発信の必要性が示唆された。現在は、入学前の学校説明会や保護者会で学校の理念や目標、クラス運営などにつ

いて説明している。今後は学生や保護者が日常的に教育理念や教育目標に触れられるよう、校内掲示を行ったり、入学後の保護者会において理念や目標等を紙面で配布し説明をしていく。また、初講時に教育目標と学習目標のつながりを学生に説明していく。

II 学校運営

総合評価：3.5（前年 3.3）

学校運営に関する評価は、前年度と同様の水準を維持している。特に、教務及び事務組織の整備、業務分掌の明確化（3.4→3.9）については、昨年度見られた「やや不適切」・「不適切」の評価が、今年度は見られず、改善が進んだと考えられる。各教職員が業務分掌の内容が現状に合っているかを確認して教員会議で共有し、iPadの共有ドライブで配信したことにより、業務内容を把握しやすくなったことが評価向上につながったと推察される。会議については年間計画に基づき、おおむね計画どおりに開催しており、定期的な会議開催の評価（3.5→3.8）は前年度より「適切」と評価とする割合が増加した。就業規則（3.2→3.5）についても、いつでも閲覧できる環境を整えたことで、評価が向上したが、「各自で紙媒体を所有したい」という意見も複数みられ、さらに共有ドライブでの閲覧を周知していく。また、業務の効率化については、情報システム化の評価が大きく改善（2.9→3.7）しており、会議資料や授業変更などはiPadで配信、学校掲示板システムによる学生への連絡、Googleクラスルームでの授業資料の配信など、ICT活用が定着しつつあることが反映されている。しかし、ICTスキルには、教員間で差があるため、教員間での学びあいを促進し、ICT活用の均質化を図ることで、学生への教育・指導に一層集中できる環境を整えていきたい。

III 教育活動

総合評価：3.6（前年 3.5）

教育活動に関する評価は前年度よりわずかに向上し、全体として「適切」と判断されている。特に、教育理念が反映され教育課程の編成（3.4→3.6）、体系的なカリキュラム編成（3.8→3.7）、授業評価の実施（3.7→3.7）、成績評価の明確化（3.5→3.7）など多くの項目で安定した評価が得られている。本校では、外部講師は現在約80名であり、外部講師が講義を行うことで、専門性の高い内容や最前線の医療現場の情報を学生に伝えることができているのは大きな強みである。一方で、外部講師の比率が高まることで科目間のつながりが希薄になる懸念があるため、学内教員が「橋渡し役」となり、講義内容の調整や補足説明を強化する必要がある。また、学生の学力低下により3年間で看護師になることが厳しい学生も増えている。今後は、学習面・精神面で学生一人ひとりに応じたサポートが求められる。

職員の能力開発としては、外部の学会や研修に参加した成果を、教員会議で共有している。また、教員全員で外部セミナーを視聴し学びあう時間を設けるなど、学び合いの文化が定着しつつある。新カリキュラムに伴う演習の増加により、他の領域の演習に参加する機会が増え、領域を超えた教育方法の共有と活用が進んでいる。今後も教員間の協働を促進し、教育の質の向上を図ることが重要である。

IV 学習成果

総合評価：3.4（前年 3.3）

学習成果に関する評価は前年度よりわずかに上昇し、全体として「適切」と判断されている。特に、卒業時の到達度（3.8→3.7）や資格取得に向けた取り組み（3.7→3.8）は高い水準を維持しており、教育活動の成果が一定程度、反映されている。退学率の低減に向けた取り組みについて「やや不適切」という評価はみられず、改善が進んでいると考える。退学の理由としては、「看護師の具体的なイメージが持てず、仕事が自分に合わないと感じた」「家庭の事情」「心身の健康上の理由（メンタルヘルス不調等）」「学習についていけない」など多様であり、学生の状況を早めにキャッチし、きめ細やかな個別の学習支援だけでなく、多様な背景を考慮した個別支援やカウンセリングの利用促進など、精神面のサポートも継続していく必要がある。一方で、卒業生の活躍や評価の把握（2.8→2.9）、卒業後のキャリア形成の把握と教育活動への活用（3.1→3.2）は依然として低い評価にとどまっている。学校の教育活動への活用については、「適切」の割合が少なく、15.4%は「やや不適切」と評価している。卒業後の状況がわかりにくく、十分得られていないことが課題として挙げられた。ただし、学内で行われる湘南ナースの研修時、実習先が主な就職先になっていることから、卒業生の姿を見る機会はある。また、就職先から卒業生の活躍を写真付きで知らせてもらえるなど情報提供の取り組みはみられている。今後も、実習病院との連携を強化して卒業生の状況を継続的に把握し、教職員間で共有するだけでなく、学内掲示やホームページなどで紹介するなど、学生の学習意欲向上につなげていきたい。

V 学生支援

総合評価：3.6（前年 3.4）

学生支援に関する評価は前年より向上し、全体として「適切」と判断されている。特に、就職・進学支援（3.4→3.8）、健康管理体制（3.5→3.7）、学生の生活環境支援（3.2→3.5）など、多くの項目で改善がみられた。

学生相談や健康管理に関しては一部に「やや不適切」の評価があるものの、精神面での支援を必要とする学生が増えている現状をふまえると、教員が協力して早期に学生の変化を察知し、相談や受診につなげている取り組みが一定の成果をあげていると考えられる。学校カウンセリングは無料で月に2回実施しており、クラス担当教員を中心に、必要に応じて専門家の支援につなげる体制を継続して強化していく必要がある。

保護者との連携については、今年度より保護者会に参加できなかった家庭へメールで学校の様子を伝え、必要時には個別に電話連絡を行うなど、情報共有の機会を拡大したことで評価が向上した（3.2→3.5）。学生数の減少に伴い、一人の学生が複数の自治会役割を担うケースが増え、自治会活動の負担が大きくなっているため、活動内容の精査と教員のサポートがより求められている。

卒業生への支援体制（3.3→3.7）も改善がみられた。卒業生が相談のために来校する様子や、実習先で声をかけてくれる場面もあり、必要に応じて相談に応じられる体制が整いつつある。今後は、在校生のキャリア形成支援にもつながるよう、卒業生とのネットワークをさらに活用し、情報共有や交流の機会を広げていくことが期待される。

VI 教育環境

総合評価：3.7（前年 3.7）

教育環境に関する評価は、前年度と同様の水準であり、全体として「適切」と判断されている。特に、防災体制については、高い評価が維持されており、学生が安心して学べる環境が整えられていると考えている。施設・設備については、教育上必要な設備は整えているが、「部屋が少ない」との意見があった。学習形態の多様化により、学習スペースの確保が課題である。限られた施設のなかで、学生が学習しやすい環境になるよう、既存のスペースを有効活用していきたい。

VII 学生募集 平均 3.5（前年 3.5）

学生募集に関する評価は、前年と同水準であり、全体として「適切」と評価されている。少子化の進展や、看護を志願する学生の減少、大学進学希望者の増加に伴い学生確保は困難な状況にあるものの、本校の募集活動は一定の成果をあげていると考えられる。

今年度は、指定校や、通信制の高校を訪問継続し、本校の特色などの説明を行った。また、学校説明会は6回、オープンキャンパスは3回実施し、個別相談にも対応するなどの広報活動を展開した。今年度より総合型選抜入試（AO入試）を導入し、入学試験の回数の増加や、特待生制度の開始など、受験機会の拡大と経済的支援の充実を図ったことが評価向上につながったと推察される。広報活動については、ホームページやInstagramを充実させ、学校の様子や学習環境を視覚的に伝える工夫を行った。また、入学と同時に通信制大学の単位を取得できるダブルスクール制度に関心を示す学生もみられ、本校の特色として認知が広がりつつある。一方で、学生確保の難しさは依然として続いており、次年度はさらに選抜方法を面接試験のみとしたAO入試の回数を増加する。経済支援対策として、入学試験合格者で「高等教育の修学支援制度」を利用する者については、授業料の支払いを猶予する制度を次年度から導入する予定であり、経済的理由による進路断念を防ぐとともに、学生が安定した学習環境を確保できる取り組みとして期待される。次年度も、本校の特色を活かした広報活動を行い、意欲ある学生の確保に努めるとともに、閉校までの期間、必要な学生数を確保しつつ教育の質を維持するための募集活動を継続していくことが重要である。

VIII 財務

総合評価：3.5（前年 3.4）

財務に関する評価は前年度と同水準であり、全体として「適切」と判断されている。財務基盤の安定に対しては、補助金の減額や2030年3月の閉校による財政基盤への不安の声が一部で聞かれており、中期的な安定性には不安が残る。今後は、2027年度の最終募集まで学生確保に全力を尽くすとともに、退学率の低減に向けた取り組みによる授業料収入の安定、および経費（光熱水費・紙代等）の節約を徹底し、健全な運営を維持する必要がある。

IX 法令等の遵守

総合評価：3.8（前年 3.8）

法令等の遵守に関する評価は前年と同水準であり、全体として「適切」と判断されている。

特に、法令や専修学校設置基準の遵守（3.9→3.9）および会計監査の適切性（3.7→3.7）は、引き続き高い評価を維持しており、学校運営が適切に行われていることが示されている。また、自己評価の実施と改善への取り組み（3.6→3.8）については前年より「適切」とする割合が増加した。昨年度の自己評価結果を教員間で共有し、ホームページで公開したうえで、改善に向けた取り組みを進めたことが評価向上につながったと考えられる。個人情報保護についても、保護対策の適切性（3.7→3.6）が維持されており、情報管理に対する意識と体制が一定の水準にあることがうかがえる。今後も閉校までの期間において適正な運営を維持し、法令遵守・情報管理・自己評価の改善サイクルを維持することが求められる。

X 社会貢献・地域貢献

総合評価：3.6（前年 3.5）

社会貢献・地域貢献に関する評価は前年よりわずかに向上し、全体として「適切」と判断されている。今年度も、小学生を対象とした看護体験イベント「学びing」や、近隣小学校での出張講義、学生によるボランティア活動など、地域と連携した取り組みを継続して実施した。これらの活動は、地域住民との交流の機会となるだけでなく、学生が社会経験を積み、豊かな人間性を育む場としても重要な役割を果たしている。また、地域の清掃活動も継続して行われており、地域社会に対する貢献として一定の評価が得られている。評価項目では、教育資源や施設を活用した社会貢献（3.8→3.8）、学生のボランティア活動の奨励（3.8→3.8）が高い水準を維持している。一方で、公開講座等の受託（3.3→3.0）は他項目と比較すると評価が低く、今後の課題としてあげられる。閉校が決定している状況ではあるが、地域とのつながりを大切に、学生が地域社会の一員として成長できる機会を確保することは引き続き重要である。今後も、地域に根ざした活動を継続し、教育機関として社会的役割を果たしていくことが求められる。